

令和6年度 自己評価・学校関係者評価

学校法人 二階堂学園

日本女子体育大学附属みどり幼稚園

1. 教育目標

- ・明るく元気な子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・発想の豊かな子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・動植物の飼育や栽培、ビオトープの生き物や草花、水の流れ等に興味関心を持ったり、園外に出て自然に触れたり様々な体験ができる機会をつくる。
- ・食育活動を通し、育てる・食べる喜びや楽しさが感じられるよう、年中行事も大切に取り入れる。
- ・募集及び広報活動においては、説明会や見学会、給食試食会の機会を増やし園の魅力を広くアピールし、園児獲得を目指す。

3. 評価項目

項目	事項	評価の内容	自己評価	関係者評価
I 教育（保育）	カリキュラム	園児が伸び伸びと園生活を楽しみ、自ら主体的に行動できる環境作りをし、一人一人の発達を促した。	A	A
		古くからの伝統行事を大切に、季節を感じながら興味・関心が持てるよう保育に取り入れた。	A	A
		四季を通して、園児がビオトープの生き物や植物に興味、関心をもち、心の成長もはかれるよう保育した。	A	A
		園外保育を通し、園児が様々な経験や体験をし、知識や技能を身につけられるよう、また体力向上にもつなげられるよう活動した。	A	A
	食育	園児に食の大切さを伝え、保育の中で「育てる・作る・食べる」の体験を楽しめるよう保育した。また花や野菜の栽培を通し、感情豊かに、心身の育ちにつながるよう保育した。	A	A
	預かり保育	預かり保育の需要増加に伴い、教員の配置を考えた。また保護者のニーズも考えながら安全に十分配慮し、保育環境を整え充実した保育を行った。長期休みにおいては、季節にあった年中行事を取り入れ楽しく過ごせるよう保育した。	B	A
	大学連携	附属幼稚園として、幼稚園教諭を目指す学生が子どもへの理解を深め、幼児教育の知識を学べるよう援助を行った。また、大学の授業参加等で学生との関わりや教員による専門指導、大学キャンパスへ行く機会を設け附属園としての特色を打ち出した。	A	A
	安全対策	園内の環境整備・点検を行い、園児に危険な箇所は修理し、ドアの施錠や防犯カメラを活用して、安全管理の徹底を行った。また、課外活動や預かり保育後の駐輪場の安全確保の為に明かり（街灯）を確保し、保護者が安心できるようにした。地域の警察署と連携し、警察官による指導や講習会を、園児・教職員に実施し知識の向上が図れた。	A	A

Ⅱ 研究活動	園内外への 研修	積極的に園外研修会に参加し、一人ひとりの保育技術の向上につなげた。 また、園内研修において職員間で共通課題に取り組み、より質の高い保育を目指している。	B	—	
Ⅲ 募集及び 広報活動	広報活動	園外での広報活動（合同説明会）に積極的に参加し、広くみどり幼稚園を知ってもらった機会となった。	A	—	A
		見学会や説明会の内容や回数を考え充実させた。また、園の特色となる給食の試食会を開催し園児獲得につながった。	A	A	
		ホームページを充実させ、また SNS を活用し園外に保育や情報等を配信した。	A	—	A
		プレ保育（みどりクラブ）を充実させ、園児獲得につながった。	A	A	
Ⅳ 社会貢献・ 地域連携	未就園児親 子への支援	園庭開放や未就園児教室を開催し、近隣の子育て世代の方が気軽に参加でき、情報交換の場となるようにした。また、遊具やおもちゃを充実させ楽しく過ごせるよう配慮した。	A	A	A
		子育て講習会や子育て相談会を実施し、子育ての悩みや子育てのアドバイス等が行える企画を実施した。	A	A	
		年長児の小学校と連携を図り、学校見学の機会を作り就学への期待が持てるようにできた。また、地域の中学校の職場体験や高校生を受け入れ地域貢献ができています。	A	A	
Ⅴ 子育て 支援	在園児保護 者への支援	教育課程後の、保護者支援としての預かり保育を行い、教員を配置し充実、かつ安全に保育を行った。	A	—	A
		保護者との連絡や事務処理方法として、ICT ツールを更に活用し、保護者・教職員の利便性・効率をより図る為、新ツールの取り組みを開始した。	A	A	
		保護者のカルチャー講座・サークル活動の場とし、保護者のリフレッシュとなるよう活動を支援した。	A	A	

4. 関係者評価：保護者会役員

Ⅰ 教育（保育）

- ・子ども達がのびのびと過ごせるような環境を構築している。

Ⅱ 研究活動

Ⅲ 募集及び広報活動

- ・未就園児のいる家庭が参加しやすいイベントが沢山あり、入園前に園を知る機会を設けている。

Ⅳ 社会貢献・地域連携

- ・近隣の小学校との交流も多く、連携という視点だけでなく、入学前の園児にとっても、とても良い刺激になる場を提供している。

Ⅴ 子育て支援

- ・園だより等の配信物は全てペーパーレス化が進んでおり（れんらくアプリ）園活動の可視化及び園との密なコミュニケーションに繋がっている。

A	十分に成果があった	C	取り組まれているが、成果が不十分であった
B	成果があった	D	取組が不十分である

．総合的な評価結果

評価	理 由
A	1年を通し子ども達は伸び伸び、主体性を持って過ごしていた。年中行事を通し日本の文化を経験し、また四季折々の自然環境を園内の草花・ビオトープの生き物に興味を持つことで感じながら過ごしてきた。行事においては、コロナ禍以降初めて制限のない活動を行い、保護者の方々にも来ていただき子ども達の様子や活動、活気のある園内をご覧いただけたのではと感じる。 安全面として、南門入口付近に外灯を設置し、夕方以降の預かり保育お迎え時や、小学生の課外教室の送迎時の明るさが昨年度より確保され、今後も保護者の方が安心して預けられる環境作りをしていきたい。 課外活動の充実として、保護者から希望の多かった年少児の体操教室を2学期から開催、年少児の体力、技術向上となった。また年少児・年中児のMAC教室は回数を重ねるごとに参加人数も増え、子ども達の興味が増した。 引き続き、日本女子体育大学附属としての特色、隣接する高等学校と連携をはかり、子ども達がのびのび運動に取り組めるよう、グラウンドや体育館の使用ま、大学施設の利用も増やし、子ども達により良い保育環境を提供できるよう目指していく。

6．今後取り組む課題

		課 題	具体的な取り組み方法
1	教育 (保育)	カリキュラム	それぞれが伸び伸び個性豊かに生活し、様々な活動に意欲を持つて取り組めるよう環境設定をし、成長を促していく。また、体を十分に動かし、運動機能・体力向上を目指し、カリキュラムを作成していく。
2		食育	食育活動を通し、『作る・育てる・食する』を子ども達に体験させ、食べ物に関心・興味が持てるようにする。また伝統行事（七夕・十五夜・餅つき・節分・ひなまつり等）季節を感じる行事を積極的に取り入れ、日本の文化を少しでも伝承できるようにする。
3		預かり保育	保護者が安心して預けられるよう教員の配置を行い、子ども達が楽しく長時間過ごせる保育内容、環境を整え、日々安全に過ごせるよう考えていく。
4		安全対策	引き続き、安全対策に常に取り組み、警察や各所との連携を図り、登降園時の安全指導、近隣の迷惑にならないよう安全面も含め配慮していく。また、南門付近に防犯カメラを設置したり、またフェンスの安全性も点検したりし、安心して過ごせる環境づくりを行う。
5	地域連携	未就園児親子支援	園庭開放・講演会や子育て支援活動を行い、保護者同士の交流・情報交換の場、安全に気軽に遊べる場として活動していく。